



福岡県優秀技能者県知事表彰受賞祝賀会

## お客様の笑顔をみるこゝろが最大の喜び より良い製品を探求していききたい

有限会社丸惣

酒見 國之さん

(平成24年度福岡県版現代の名工)

昭和四十一年のことだった。父は十八歳の國之さんに、木工道具一式を与えた。のみ、かんな、キリ、のこ、などだ。そして父は唐突にこう話した。「おまえは教育を受けているのだから、自分ひとりで家具を作れ！」

当時の大川は量産家具への移行期。まだ、徒弟制度の雰囲気が残っており、職人たちもまだ大勢いた時代だ。

國之さんは独学で家具造りに挑戦していった。当初、漠然とした気持ちで家具造りに取り組んでいたが、徐々におそらくなくなっていくという。「形のないものから製品を作りあげていくのは興味深い！」

探究心と挑戦する心が芽生えていった。ひたむきに取り組むようになった。

試行錯誤の年月が流れた……。二十年が過ぎた。そしてやっと「他の企業と肩を並べた」という実感を持たったという。東京の大手百貨店との取引も始まった。

有限会社丸惣の製品は、その技術力に定評がある。オリジナル家具から色やサイズを変更するセミオーダーまで、あらゆる収納家具を製作している。寸法の狂いのない精緻な造りが特長だ。今回の「現代の名工」の受賞はそれを裏打ちしている。受賞歴もすごい。福岡県優秀技能者県知事



表彰。協同組合大川家具工業  
会主催『住空間デザインコン  
ペ』で内閣総理大臣賞、経済  
産業大臣賞、農林水産大臣賞  
などを受賞している。

「もし、技術力が優れている  
としたら、それは手間ひまを  
掛けているからだと思ってい  
ます。同じようにみえる製品  
でも、十工程かけるのと十五  
工程かけるのでは大きな違い  
が生まれます。消費者が一生  
使える本物の家具を提供した  
いと願っています。」と話され  
る。

七年前からは無垢の味わい



伸長式テーブル（内閣総理大臣賞）



料理を乗せたままでもサイドテーブルを伸ばせるので、エクステンションテーブルにありがちなわずらわしさがありません

を生かす家具づくりにも取り組んでいる。ユーザーの無垢材及び一枚板志向を踏まえてのことだ。アメリカ広葉樹材をよく使う。ウォルナットが一番多く、ブラックチェリー、ホワイトオーク、ハードメープル等も使用する。



無垢材の縦格子が特徴的なTVボード

「以前は木の無欠点部分、つまりさしみの部分しか使わないといった家具が主流でしたが、そうしたことをやっていたのは日本だけです。自然に生えている木に節があるのは当たり前のこと。かえってそうした変化がユーザーに喜ばれるのではないのでしょうか。」

「そして、「木は切っても生きています。どんなふうにも動くか分かりません。一〇〇%の物作りを目指していますが、いまだにつかみきれませんね。」ここ二三年ぐらいいは、試験場とタイアップして、「収縮を抑え、割れない材をつくる」研究も進めている。樹脂を木材に注入する方法だそうだ。「満足したら終わり！」と言われる。その限らない探究心

は素晴らしい。  
昨年十二月二十一日には、福岡市中央区大手門にシヨールーム「Maison Marceau（メゾン・マルソー）」をオープンさせた。店舗面積は約十坪。オーダー家具を中心に、伸長式ダイニングテーブル、ソファ、TVボード、食器棚などをそろえる。

これは息子の酒見史裕さんが中心になってプロデュースしたものだ。史裕さんは、二〇〇二年に丸惣に入社。二〇〇八年にデザイン事務所STRINGSを立ち上げ、その活動をしながら、二〇一二年に丸惣に復帰。家具の提案、商品開発、特注家具の図面作成などを行っている。國之さんは「私はあくまでも職人です。これからの時代は売



ソファとリビングテーブル

るためのプロデュース力も必要です。その面では息子に期待したいですね。私は黒子に徹していきますよ。」

さて夢は何だろうか。

「自分の製品を買っていただいたお客の笑顔をみるのが最大の喜びです。そのためにより良い製品を探求していきたいと思っています。エンドレスで挑戦していきたいですね。」

Maison Marceau

（メゾン・マルソー）

<http://www.maisonmarceau.com/>



壁面収納家具とソファ